

8月6日(金曜日)

ドル/円

米雇用統計後のFOMCを意識して

5日(木)の主な推移

チャート: 30分足 5日(木)朝6時 ~ 6日(金)朝6時

NYダウ平均

10674.98ドル
(-5.45ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

2.9029%
(-0.0541%)

NY原油先物

82.01ドル
(-0.46ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所: 外為どっとコム

- ① 日経平均が高く寄り付いたことを背景に、ドル/円は9時過ぎに86.45円の高値を付けた。しかし、その後は日本株の上値が重かったことを背景に、ドル/円も下落した。
- ② 欧州中央銀行(ECB)や国際通貨基金(IMF)が相次いでギリシャの財政再建策の進捗について評価する態度を示した他、9月に同国が緊急融資の第2弾を獲得する見通しということが明らかになったことで、ユーロ/ドルでドル安が進行。これを受け、ドル/円でもドル売りが優勢となった。
- ② 21時30分に発表された米新規失業保険申請件数は47.9万件と市場予想の45.5万件より弱い結果を示したことから、ドル/円ではドル安・円高が進んだ。その後、NYダウ平均が安寄り後に下げ幅を圧縮する流れになると、ユーロ/ドルでユーロ高・ドル安が進行。これを受けてドル/円ではじわじわとドル安が進行し、未明には85.70円の安値をつけた。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 84.80- 87.10円

本日の市場の関心は米7月雇用統計一本に集中している。今回の米雇用統計は、来週10日に行われる米連邦公開市場委員会(FOMC)での景気判断や金融政策などに強く影響を与えるとみられていることから、特に注目度が高いと言えよう。

鍵となり得るのは引き続き米2年債利回りの動向で、雇用統計の内容が雇用環境の弱さを浮き彫りにする内容となれば、米国の超低金利政策の長期化が意識され、米2年債利回りがさらに一段低下する可能性がある。そうなれば、ドル/円にはドル安・円高要因となる。一方、市場予想よりも強い結果が出た場合は、厳しい状況が続いていると思われていた米雇用環境に対してやや安心感が広がる見通し。そうなれば、米2年債利回りも反発し、ドル/円ではドル高・円安が進もう。(ジェルベズ)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
8/6(金)	21:30	◎	(米) 7月非農業部門雇用者数	-12.5万人	-6.5万人
	21:30	◎	(米) 7月民間部門雇用者数	+8.3万人	+9.0万人
	21:30	◎	(米) 7月失業率	9.5%	9.6%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com